

◆ボアット・ア・リーブル（読書箱）の設置の提案

1. 提案

ボアット・ア・リーブルを富山のまちをつなぐアイコンとして活用し、人々のウェルビーイングの向上、富山のコンパクトシティの魅力の再認識を促進することを提案します。

具体的な実施内容といたしましては、①県庁前公園を中心にまちの各所にボアット・ア・リーブルを設置すること、②既存のイベントとの合同開催でNHK跡地にて本の持ち寄り交換会を実施することです。

① ボアット・ア・リーブルの設置・宣伝・運営

ボアット・ア・リーブル（以下読書箱）とは、主に公共施設などに設置される公共の本棚のことで、誰でも無料で必要としなくなった本を持ち寄ったり、気に入った本を持ち帰ったりすることができます。

アメリカで誕生し、2008年からフランスの一部の市町村で採用され、手軽さ等の魅力からフランス全土で見られる取り組みになりました。現在はイギリス、オランダ、ベルギー、イタリアなど多くの欧米諸国でよく見られる取り組みとなっています。（図1,2）

この読書箱を県庁前公園を中心とした公共施設等に設置します。

さらに読書箱を知ってもらうために、まちなかの読書箱の位置がわかるウェブページを開設し、そのサイトのQRコードの添付を提案します。読書箱に本を持ち寄るとき、読書箱の本の目印としてQRコードが添付されたシールを貼るというルールを設けます。これによって利用者は富山のまち全体にこの取り組みが普及していることを知るだけでなく、読書箱利用のハードルを下げることもできます。

ウェブページ開設の取り組みは国際的に行われており、Free Little Library というアメリカのミネソタ州に拠点を置く非営利団体によって世界中の登録されている読書箱の場所を見つけることができます。（図3）

他にも市町村や企業が運営している読書箱マップも存在しています。

読書箱の設置によって富山はコンパクトシティによる魅力だけでなく、世界的に実施されるウェルビーイング向上の取り組みを実施するまちとして発信力を高めることができると考えます。

また、この読書箱の管理、ウェブページの運営のための部屋として県庁の空き部屋を利用することを提案します。

② NHK跡地でのイベント開催

NHK跡地にて既存のケンチョウマルシェや焚火コーナー（TAKIBI CITY）などのイベントと合同開催を提案します。読書箱イベントの具体案としては、各地の読書箱の本を回収して展開します。来訪者は本を持ち寄ったり持ち帰ったりすることができるイベントです。2000年代から日本各地で開催されている「一箱古本市」を参考にしました。このイベントは人々の交流を促進するだけでなく、利用者に適切な利用方法の再確認・呼びかけをすることで読書箱の取り組みを長く持続させていくことにつながります。また読書箱は焚火コーナー（TAKIBI CITY）同様に人々のウェルビーイングの実現を目指していることから、合同開催することで双方の活動の活性化を実現することができると考えます。談笑の場に本があれば、より人々の交流を促せるのではないのでしょうか。

このようなイベントの合同開催が企画された場合に、県庁に読書箱の管理・運営室があると、読書箱の本の回収やイベントの告知、開催がスムーズになります。ウェブページはこのようなイベントの告知にも最適です。

2 読書箱の取り組みの魅力

① ウェルビーイングの促進

はじめに日本人の読書離れとそれに対する現代社会人の認識に注目します。文化庁が5年後ごとに行っている調査である、文化庁令和5年「国語に関する世論調査」のよると、「一か月に読む本の冊数」の質問に対して62.6%の人が「読まない」と回答しました。そして読書量の増減に関する調査では、69.1%の人が「読書量は減っている」と回答しました。このことから、現代人は読書量が著しく減少していて、かつ多くの人がそれを意識していることがわかります。

読書とは「自己表現と社会参与に求められる言語能力の発達や知識へのアクセスを、そして他者の視点を通じて物事を見る機会を提供する。読書は他者を理解する試みであり、時として読者の信念とぶつかり、その思考や行動に変化をもたらす」もの、かつウェルビーイングの実現を可能にするものです。読書を楽しむ機会や時間は、基本的に自らが能動的に動かなければ実現されることが多いですが、読書箱は利用者が受動的に読書離れを解消することを実現すると考えます。実際に、フランスやアメリカといった全国的に読書箱の設置を実施している国々の読書率をみると、フランスは86%、アメリカは81.6%と高い傾向にあります。特にフランスは本の入手方法の40%が「古本」でした。これは読書箱が人々の読書習慣に大いに貢献していることを示します。

・手間と時間の削減

「読書量が減っている理由」として「情報機器（携帯電話、スマートフォン等）で時間が取られる」と回答した人が43.6%、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」と回答した人が38.9%でした。このことから、読書をする時間を確保する以前に、気になる書籍を探す、書籍を購入するという手間と時間が現代人の読書へのハードルを上げる原因の一つではないかと考えましたと考えました。県庁前公園で実地調査を行ったところ、平日昼間の利用者はおそらくほとんどが昼休憩のオフィスワーカーでした。読書箱の設置は時間や手間の削減を可能にするだけでなく、このように多忙なオフィスワーカーの読書生活を応援することができるのではないかと考

えましたと考えました。読書箱は、利用者の時間や手間を削減し、好きな時にすぐに本を読める状態を実現します。読書箱の本は持ち帰りできるので、読みたいときに手元に置いていくこと、必要としなくなればまた読書箱を利用することが可能です。通常の二次売買や貸し出しのような手間がかからないうえに時間を大いに効率的に活用することができます。

- ・人々のつながりに貢献

読書箱は人々の間接的な読書生活の交流を可能にします。人と人の繋がりが希薄になっている、人ひとりでも生きていける時代だからこそ、人とのつながりをどこかで求めていると思います。これは読書生活においても反映されており、文化庁の同調査では、「読む本の選び方」について「書店で実際に手に取って選ぶ」人や「友人や知人、家族などから勧められたものを選ぶ」人の割合が減少しています。

読書とは個人の活動によるものです。しかし、読書箱を通して間接的に各々の読書生活の共有を図ることができるという点で、間接的な交流が人々のウェルビーイングの促進につながるのではないか。また幅広い層に適応が可能な読書活動はまちの様々なプレーヤーの交流に貢献し、コミュニティの形成を実現させることができるのではないかと考えました。上記にも述べたように TAKIBI CITY などのイベントと協同することで、多様なプレーヤーの交流やまち全体のつながりに貢献できると考えます。

② 「団子と串」構成のまちを活かす

商店街エリアと人々の心の距離

読書箱の設置によって、実は交通網が張り巡らされていて足を延ばしやすいことをもっと多くの人に再認識してもらうことができます。

大学生 20 人を対象に「商店街エリアに行ったことがあるか」という質問をしたところ、14 人が「行ったことがない」と回答しました。理由は「何があるか知らない」「遠い」というものでした。「遠い」という理由に関して、商店街エリアは駅前から徒歩で移動することも可能な距離であり、かつ路面電車の駅の充実から、遠いというのは実際の距離ではなく回答者の心理的な距離感覚であると考えられます。読書箱という新たな来訪同期が富山のまちの回遊性・連続性を再認識し、商店街エリアも身近な存在であったことに気づいてもらう良い機会になると考えます。

商店街エリアの注目施設付近に読書箱を設置することで他施設の宣伝やイベントの誘導にもつながります。読書箱の利用をしなくても、読書箱の設置場所がわかりますようにしておけば認識にきっかけになります。

このように読書箱は県庁公演を中心としたコアエリア以外の周辺街区の活性化を促進することが期待できます。

3 懸念点と解決案

① 書籍の大量投棄/大量回収

- ・譲渡できる書籍の種類を規制

「～号」といった週刊、月刊の雑誌や新聞、教材、コミックス、勧誘のパンフレットは禁止し、文庫、新書、ハードブック、絵本、実用本は許可。読書箱に入らなかった場合は持ち帰るといった規制を設ける。

また、一度に譲渡・持ち帰りできる冊数を規制する。このようなルールを読書箱の側面や公共施設等に掲載する。一部の地域では読書箱を返却制にしているため、返却制度を設けるのも良い。

- ・定期的な点検・管理運営組織を立ち上げる

② いたずら行為

- ・イベント時は読書箱自体は閉鎖し、回収した本を展開してイベントを開催する。

- ・防犯カメラの設置

敷地内/施設内の防犯を目的としたカメラとして読書箱にも配置する

- ・人目に付く場所へ設置する。半施設内や路から見える場所に設置し、いたずら行為を抑制する。

- ・イベントでの注意喚起、再認識を促す。

5 まとめ

読書箱はコアエリアを中心として人々のウェルビーイングの向上、富山のコンパクトシティならではの回遊性・連続性の再認識、まち全体のつながりに貢献できると考えました。ウェブページの解説や既存のイベント・取り組みとの協同も見込めるため、読書箱は継続されていくなかで柔軟な変容を見せることができると思います。富山のまちをつなぐアイコンとして読書箱の提案をさせていただきました。よろしくお願いいたします。

参考

- ・Free Little Library ウェブサイト：[Little Free Library World Map - Little Free Library](#)

- ・フランス国立書籍センター「フランス人の読書習慣に関する調査」(Les Français et la lecture)

- ・国際出版連合 (IPA)「Reading Matters: Surveys and Campaigns – how to keep and recover readers」

参考資料

・ポアット・ア・リーブ

：様々なデザインがある。公園には両開きのデザイン（図1）、街中や人通りの多い場所には片開きの細長いデザイン（図2）が多い。
他にもベンチが併設されているものや、特定のモチーフがデザインされているものもある。



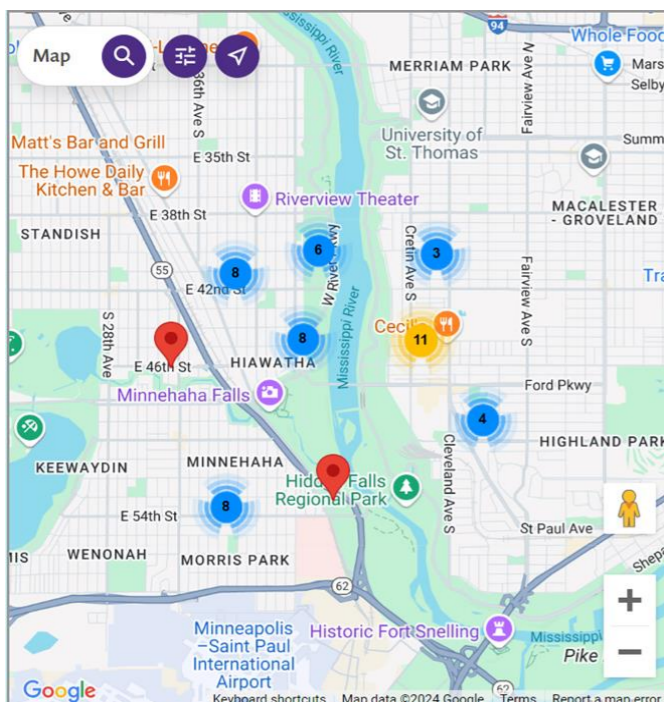
(図1)



(図2)

・Free Little Library ウェブサイト

：世界中の登録されている読書箱の位置がわかるウェブサイト。特定の位置だけでなく、ある地域にいくつ設置してあるかを把握することもできるようになっている。



(図3)

[Little Free Library World Map - Little Free Library](#) より (2024/10/22)